
虹道陽炎

斉藤紀榮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虹道陽炎

【Nコード】

N8260A

【作者名】

斉藤紀榮

【あらすじ】

命をかけてでも守りたいと思う人が出来た。……しかし、その人は――

人の命、それについては儚き物が重き物か。
物の命、ついて廻れば全てが幸福か不幸か。
者の命、大切にすべきか杜撰ずさんに扱うべきか。

——全ては、与えられたものの自由に。

.....。

ある夏の日だった。そのことは覚えている。季節感がそれに近かった春かもしれない。かなり暑い日だったことは覚えている。

自分の中で、全てが洗い流された感覚。綺麗サッパリに洗い流されていく感覚。まるで自分が自分でないみたいな高揚感。

嬉しい筈だった、本当だったらこれは……嬉し涙のはずだった。

……なぜだろう、笑って、やる事しか出来なくなっていた。

嬉しい事と、悲しい事がほぼ同時に起こった自分は、この変と思える感覚がとても不思議でしやうがなかった。

——永遠を求め続ける人とは、なぜこうも滑稽にみえるのだろうか？ 結果がやらなくてもわかるようなことに挑み続ける人を見るのを馬鹿にしてしまうのはなぜだろうか？

——自分が全てであり、たとえ混乱し続けようとも人間は……：自分以外はたとえ肉親であろうが兄弟であろうが「他人」でしかないのだと、思う。

「守ってやろう」いや「守る」。どちらにせよ意味合いとしては代わらない言葉だ。だが、自分としては後者のほうを選んだ。

前者の場合は決定していないように聞こえるからだ。言い切らなければ人の思いを掴む事は出来ないと思ったからだ。

しかし、その言葉を使った人はもう、この世界ではただの「器」となってしまった。魂という概念が抜け出てしまった只の蛋白質、アミノ酸の塊に。

.....。

事の始まりは高校三年生だった。彼女はその年の四月に自分が通っていた高校へ転校して来たんだ。

学生服が只一人だけ違い、最初のうちは注目を受けていたが次第に慣れが入り少ない友達も出来、溶け込んでいった。

ああ、そうだ。春だった。出会いはその年の春だった。

ショートカットの女の子だった。

名前は「篠目 雅」（しのめ みやび）

気がつけば自分と彼女は仲良くやっていた。仲のいい友達になるまで、そう日にちはかからなかった。

今思い出してみればなんで仲がよくなったのだろうか？ 今となつてはそんなこと昔すぎて記憶はない。

1 (後書き)

初心者なのでこんな下手な文しか描けませんがどうぞよろしくお
願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8260a/>

虹道陽炎

2010年10月18日04時53分発行